

## 自然と歴史

柘水高原は、大山の西側に位置しています。ここから見ると、大山は富士山のように見えるため、伯耆富士として広く知られています。伯耆とは、鳥取県西部の古い呼び名です。日本海に沈む美しい夕日の光景で、この高原は知られています。この地域は、鳥や昆虫の種類の高さでも有名です。特に柘水高原では、様々な花に引き寄せられて、多くのチョウが集まります。日本語で「柘」は計量器のことを言い「水」は水のことです。この地域の「柘水」は柘水の豊富で高品質な水を表しています。

## アクティビティ

柘水高原を訪れる人は、トレッキングやスキー、スノーシューやリフトで高原に登るなど、さまざまなアクティビティに参加できます。かつて人気のある巡礼ルートだった横手道は高原のブナ林を通っています、道は巡礼者や子どもたちの守り神である、地藏菩薩像が並んでいます。晴れた日にリフトに乗ると、60キロ先まで見え、弓ヶ浜半島と島根半島だけでなく、隠岐諸島も望むことができます。冬には、スキーヤーはゲレンデから米子市の景観や日本海を見渡すこともできます。